

オピニオン&フォーラム

教員負担減へ免許更新新制廃止を

高校教員 篠原 睦美

(茨城県 65)

萩生田光一文部科学相は12日、「教員免許更新制」の抜本的な見直しを中央教育審議会に諮問した。最新の知識や技能の取得などの目的で2009年度に導入され、小中学校や高校などの教員は、10年ごとに国の教育政策や学校の変化などに関する講習を受け、免許を更新しなければいけなくなった。

数万円の受講料と、夏休みなどをつぶして大学などの講習を計30時間以上受けねばならないのは、大きな負担だ。何より各都道府県の教育委員会による様々な研修によって、最

新の知識、技術は学んでいる。ネットでもできる時代。更新時に改めて受講する必要性を感じている教員は少ない。私も65歳から更に10年、教壇に立つための手続きを「拒否」し、退職する道を選んだ。

産休や育休などの代替教員不足を背景として、免許を一度失効した教員も臨時免許で勤務可能になった。複雑な免許制度は一部見直されているが、教職員を目指す若者が減り、多忙化し続ける教員の負担を減らすとするとする流れの中、大臣の諮問を重く受け止め、制度廃止も含めた検討をしてもらいたい。